

山名一族会報

全國
山名氏一族会
667-1311
兵庫県美方郡
香美町村岡区
村岡2365

山名会再興総会開催

会の再スタートを確認

山名会再興準備会（会長・山名年造）が、平成23年9月より準備を進めてきた「山名会再興総会」を10月20～21日に京都・東林院を主会場に開催致しました。



山名豊国公御廟前で記念撮影

30名のご参加を得て10月20～21日の京都は少し汗ばむほどの快晴好天。時代祭り前の慌ただしさに包まれ、街中の辻々では地域の小さな秋祭りが行われていました。

「山名会再興総会」と題して開催しました今回の総会ですがお呼びかけしたところ、茨城から広島までの山名由縁の各家20家（30名）がご参加頂きました。大半の方が旧来の山名会からの会員ですが、縁あって今回

の総会を耳にされご参加下さいました方も有りました。山名会と言えれば威厳に満ちた重厚な雰囲気集まりという印象が有りましたが、今回はどこことなく昔の山名会に比べると若返り？軽やかな印象を受けましたが、事務局の思い違いでしょうか？

総会日程

第1日目・10/20

午前11時 役員打合
午後1時 受付・東林院

1時半 挨拶・自己紹介
2時 講演・宮田先生

3時半 総会開催
5時 禅高公墓参

7時 懇親会

第2日目・10/21

午前8時半 宿舎出発
9時 等持院参拝

10時 西陣散策
11時 眞乗院参拝

12時 昼食南禅寺会館
午後2時 JR京都解散

今総会の計画段階での主
題は「山名氏の独自性」と



宮田副会長の講演

し、その意味付けを宮田靖國先生（準備会副会長）にお願いし、歴史講演「源氏の中の源氏―燦然たる山名氏の系譜」でご教授願いました。

日本史を振り返って見ますと、鎌倉幕府から、室町時代～江戸～明治維新に至るまでの間、常にその幕府に名を留め連綿と続いた「山名」

栄枯盛衰、頂点を極めた後は下るばかりが当たり前の武家社会において、武家政治の「発祥から終焉まで」を見届けたのは「山名」をおいて他には無く、正に「源氏の中の源氏」「山名氏」であることが他の武家と違う独自性・ユニーク性と言えます。

この史実であり事実について、山名ゆかりの我々自身の認識を含め、世間的にももう少し「山名氏」について正當な評価が在って然るべだと気づかせて頂いた講演内容でした。

そのような主題を受けて、2日間の史跡訪問では、山名氏最盛期の時代を支えた「山名宗全公」縁の西陣や眞乗院、戦国時代に山名の家名を必死に継いだ「山名禅高公」縁の東林院（総会会場）等を巡る計画としました。

再興総会の概要

第1日目の歴史講演の後、に再興準備会総会を行い、今後の山名会の事について協議を願いました。



少し会場が狭かった？

第1号、全國山名氏一族会再始動に関する件

*今後は山名会再興準備会が、「全國山名氏一族会」として活動を継続する事を、出席者一同の総意を得て承認頂きました。

第2号 会則・組織の検討

*当初は会員数50名(家)程度の団体としてスタート。

*役職は総裁、副総裁、会長、副会長、理事長、常任理事、理事(複数人数以上)、相談役。

*旧来の山名会の規約を参考にした規約承認。

*「入会金」5000円、「年会費」5000円とする。

*会員は1家単位とする。

*山名会の再出発であり、旧山名会からの会員諸氏についても、会員登録時に「年会費」(5千円)と共に「入会金」(5千円)のご負担もお願いする。

第3号、役員を選任

総裁・山名義晴(宗家)

副総裁・山名義英

会長・山名年浩

副会長・宮田靖國

相談役・太田垣佐登、各山名当主に要請

顧問・今後選任。

理事長・山名義範

常任理事・理事より選任。

理事・山名康之、草山

宏、山名勝、山名大介、

山名信子、山名真佐宏

山名康子、山名義範

山名嗣宣、吉村年明、

坂口久男、山名正史、

山名一男、山名晶子、

山名定喜、山名靖英

(当日総会)ご出席の各家

敬称略・順不同

敬称略・順不同

第4号、事業方針の検討

*山名会の小冊子発行等次期総会までに。

*山名会々章の作成

同封サンプル参考。

*次回総会の計画

理事会等で案検討。

事業内容の具体化は常任

理事会・理事会等を開催し

進めて行く。



全國山名氏一族会々章案

全國山名氏一族会会則

(名称) 第一条 この会は全國山名氏一族会(略称:山名会)と称する。

(事務所) 第二条 この会の事務所を兵庫県美方郡香美町村岡区村岡2365山名氏史料館内に置く。

(目的) 第三条 この会は山名氏の遺徳を顕彰し、併せて一族の親睦をはかる。(事業) 第四条 前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- ・歴史研究に関する事業
- ・会員相互の連絡事項
- ・会報の発行
- ・その他必要と認められる事業

(会員) 第五条 この会は山名氏に由縁ある者および、この会の趣旨に賛同する者をもって会員とする。

(役員) 第六条 この会に以下の役員を置く。

- 総裁 一名、副総裁 一名、
- 会長 一名、副会長 一名、
- 理事長 一名、常任理事 二名、理事 若干名、
- 事務長 一名

2、役員員の選任は、総裁が指名する選考委員の議をへて理事会において行う。

3、役員員の任期は二年とし再任を妨げない。

(顧問及び相談役) 第七条 この会に顧問及び相談役を置くことができる。

2、顧問及び相談役は、理事会の議を経て総裁が推薦する。

(会議) 第八条 この会の会議は、総会・理事会・常任理事会の順に優先する。

(会計) 第九条 この会の会計は、入会金・会費および寄付金をもって充当する。

2、金額については別に定める。

3、会費納入が2年以上

滞った会員は休会扱いとする。

(付則) 第十条 この会則に定められていない事項については、理事会または常任理事会の議を経て妥当な運営を行う。

2、この会則は、平成二十四年十月二十日より施行する。

申し合わせ事項

- ・入会金(入会時) 金五千元
- ・会費(年額) 金五千元

※本会則の不備の点は、順次改正致します。



等持院で記念撮影 (21日)



宮田先生講演有難う御座いました

総会は山名義範氏（再興準備会役員）が議長を務め、上程された議案を参加者全員の賛同を得て承認可決頂き、新生「全國山名氏一族会」としての再スタートを切ることが出来ました。

懇親会・第2日行事

総会後は、東林院裏手の禅高公御廟に向かい山名会再出発のご報告を済ませ、宿舎へと向かい、京都市内では珍しい温泉で疲れを癒した後、懇親会へ・・・。

懇親会では講演会で話されなかった山名の歴史や疑問点、また山名会の活動への期待や要望なども意見交換し、有意義な一時を過ごさせて頂きました。

明けて21日も快晴の中、



等持院の庭園を眺めながら

山名氏華やかかなりし室町時代の足利將軍木像が安置されている等持院を参拝させて頂き、抹茶接待の歓待を頂き、西陣では山名邸旧跡・西陣碑等をめぐり、南禅寺・真乗院へ。真乗院では宗全公御廟参拝の後、本堂に上がらせて頂き、宗全公ご位牌に皆でご挨拶させて頂きました。

さて、今回の総会に参加頂いた皆さんは「山名」と



会の活動について意見交換



宗全公のご位牌拝見

言う姓を身近にそして、誇りを感じて頂けたでしょうか？気掛かりなところですか？

参加者ご芳名

山名義英（小金井）、山名康之・クミ（大田区）、草山宏（相模原）、浅利幸子（立川市）、山名勝（潮来）、山名大介・美帆（名古屋）、山名信子・多恵子（豊中）、山名年浩・真佐宏（摂津）、山名康子・美絵（城陽）、名倉幸・紀宮（和歌山）、宮田靖國（西宮）、山名義範（赤穂）、山名嗣宣（赤穂）、吉村年明（倉吉）、坂口久男（倉吉）、山名正史・規子・野瀬由希子（広島）、山名一男（石川）、山名晶子（さいたま）、山名定喜（久御山）、山名靖英（京都）、吉川広隆（兵庫）

（敬称略・20家30名参加）

会長より皆様へ

今回の再興総会は総裁・副総裁と舌川御任職をはじめ皆様のお力で見事に成功致しました。和気あいあい良かったです。心から敬意と感謝を表します。次回総会は50人突破が成功の目安です。

しかし、今後の会の発展のことを考えますと、このままでは30人前後の推移が予想されま

す。今回参加されなかった一族の皆様や歴史研究者の方々へさらなる参加を募る策を練りたいと思います。いずこでも組織化は最初の珍しさもあって来てくださいますか、ここで少し気を抜くとうまくいかないのが通常ですので、皆さんで力を合わせて邁進いたしましょう。

全国山名氏一族会 会長
山名年浩 拝

H24総会のご感想・ご意見

平成18年から6年振りの総会でした。ご参加頂いた皆様のご感想が一番気になる所です。

宮田先生の歴史講演は興味深く、もう少し時間が欲しかった。次の総会、また次の総会、その次々と、山名所領の12力国をくまなく巡って、その土地の山名氏に、旅情に親しめる事を期待しています。

(某参加者)

今回、初めて総会に参加させて頂き、日本の歴史の中で山名一族が果たしてきた

役割の重さを感じ深く見学させて頂きました。継続は力なり”という言葉があります。山名一族が辿った歴史を言い表しているように思います。現在、日本は国際的にも厳しい環境にさらされております。これまでの日本の歴史を顧み、山名一族の生き方を再度勉強する時期に来ているように思います。会員が結束して、歴史認識にとどまらず、未来志向で現代社会に情報発信できればと考えております。微力ながら今後ともご支援させて頂き

(石川・山名一男氏)

御宗家様の御来駕を仰ぎ、平成24年10月20日、山名氏一族縁故の方々、京洛、妙心寺塔頭・東林院に参集し、一族会の再興を議決された事は、あたかも、天変地異の未曾有の国難から再起する日本と軌を一にして、暁天に旭日の昇るが如き感動を覚えました。

南禅寺塔頭真乘院で、宗全公の封埜に鞠躬し、且つ御位牌を拝し、遠碧院殿最高峯公大禅定門の戒名を目にした刹那、南禅寺東方の山巔も激戦地であった事を想起し、京師の天地は、我らが曩祖(のうそ)の躍動の地たらざるはなく、龍攘虎搏の勇姿が眼前に彷彿としました。

想えば、山名紋の二引両、二引両の両は龍でした。遠祖の歴史を緋けば、各代は波瀾万丈、疾風怒濤の生涯でした。その末葉として、いかなる艱難辛苦にも鎧袖一触とばかり立ち向かい、山名一族会員の矜持を持って人生を送りたい、と思います。

古人曰く、「老驥、櫪(れき・厩舎)に臥すとも、

志は千里に在り」と。末筆ながら、一族会の弥栄と皆様のご多幸とご健勝を、御祈念申し上げます。(西宮・宮田靖國氏)

先般は「山名氏一族会再興総会」に出席させて頂いた。有縁の皆様とお会い出来ましたこと心より嬉しく思いますと共に感謝申し上げます。

会長様はじめ今日まで幾多のご尽力賜り再興の運びとなりましたことは、誠に慶賀にたえません。有難う御座いました。

私は10年ほど前に一度出席いたしました。その後、ご無沙汰ばかりで失礼をしておりました。しばらく途絶えておりましたので、心配をしておりましたが、再開の機会を得ましたことを心より喜んでおります。当



山名宗家との書状交換

日は少々緊張しておりましたが、すぐに打ち解け懇親会では楽しく歓談することが出来ました。皆様いい人ばかりで安心しました。二日目は参加できませんでしたが、有縁の地を訪問され安堵しております。これからの可能な限り出席させていただきます。会員の皆様の益々のご健勝、ご一家の繁栄を祈念申し上げます。(京都・山名靖英氏)

頂きましたご感想の一部を掲載させて頂きました。次期総会の計画に参考にさせていただきます。また、総会では諸事不十分で有りました点、この場を借りてお詫び申し上げます。

山名氏一族会のホームページ

H24総会の議事内容・歴史講演「燦然たる山名氏の系譜」の内容をぜひ一度、ご覧頂けると幸いです。ぜひ一度、分お願ひ致します。
<http://yamanalzoku.org>